

2018年（平成30年） 5月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/10~5/16のNYMEX・WTIは、70.70~71.49ドルの範囲で堅調に推移した。

5月17日は、米国のイラン制裁再開への懸念から買いが先行したものの、利益確定売り等から売り戻され前日比横ばいだった。6月限の終値は前日比横ばいの71.49ドルだった。

週末18日は、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が844基（前週比横ばい）と7週振りに増加が止まったが、先日来の高値による利益確定売りやドル高・ユーロ安の割高感に押され、下落した。6月限の終値は前日比0.21ドル安の71.28ドルだった。

週明け21日は、米中貿易協議で中国側が米国産農産物やエネルギー輸入を拡大するとのことで終わったことを好感、また、ベネズエラ大統領選挙でマドウロ大統領が再選され米国の経済制裁強化が懸念され更なる減産が予想されることから反発、72ドル台に乗せた。6月限の終値は前週末比0.96ドル高の72.24ドルだった。

22日は、前日トランプ大統領が対ベネズエラ経済制裁強化を命ずる大統領令に署名したことから、買いが先行したが、その後は利食い売り等で値を戻したものの、反落した。6月限の終値は前日比0.11ドル安の72.13ドルだった。

23日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油・製品ともに積み増しとなったこと、OPECが6月にも産油量を拡大するとのロイターの観測記事が出たことから、米国の供給過剰感が高まり、続落した。この日から中心限月となった7月限の終値は0.36ドル安の71.84ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週73.80~75.10ドルの範囲で推移した。5月17

日76.50ドル、18日76.80ドル、21日76.50ドル、22日76.90ドル、23日76.80ドルで推移した。

為替は、前週109.31~110.33円の範囲で推移した。5月17日110.33円、18日110.95円、21日111.09円、22日110.96円、23日110.88円で推移した。

財務省が21日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,643円/klとなり、前旬を504円上回った。ドル建てでは66.34ドルで前旬比0.30ドル高。為替レートは1ドル/107.00円。また、同日発表した貿易統計(速報・月間ベース)によると、4月の原油輸入平均CIF価格は、44,199円/klとなり、前旬を535円下回った。ドル建てでは66.14ドルで前旬比0.60ドル安。為替レートは1ドル/106.24円。

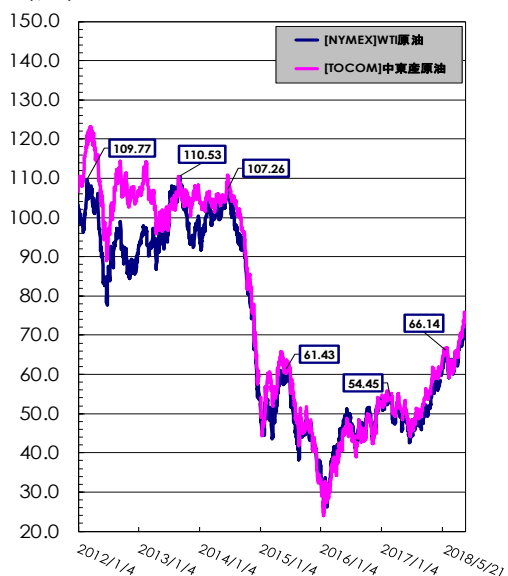
主要元売会社の5月第5週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値上げとなった。

原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、5月21日時点の小売価格は、ガソリンが前週比2.0円の値上がり、軽油も同1.9円の値上がり、灯油は同20円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油も5週連続の値上がり(18%ベース)だった。この週(5月第4週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円の値上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/13 ~ 5/19	3,031 ▼ -253	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.4 ▼ -6.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/19	13,053 ▼ -118	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/21	75.76 ▲ 2.85	▲ 22.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/21	72.24 ▲ 1.28	▲ 21.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	66.34 ▲ 0.30	▲ 12.43
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,643 ▲ 504	▲ 7,026
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.00 ▼ -0.75	▲ 3.94
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/21	112.09 ▼ -1.78	▲ 0.45

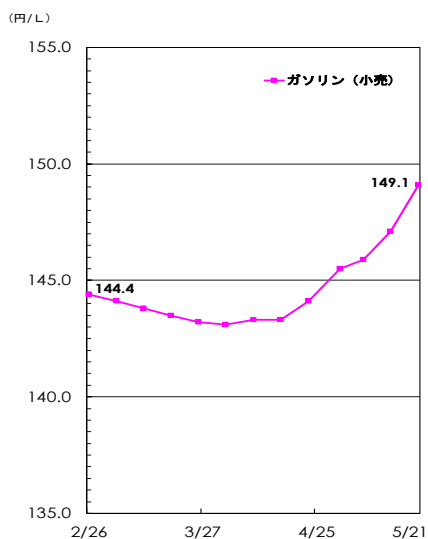
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/13 ~ 5/19	935 ▼ -92	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	875 ▼ -27	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -67	▲ -	
	在庫	5/19	1,778 ▲ 59	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/15 ~ 5/21	67.5 ▲ 1.6	▲ 20.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/15 ~ 5/21	66.9 ▲ 1.7	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	5/21	67.6 ▲ 1.9	▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/21	149.1 ▲ 2.0	▲ 16.9	

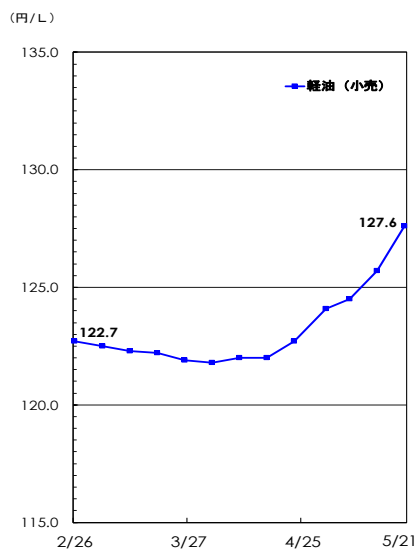
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

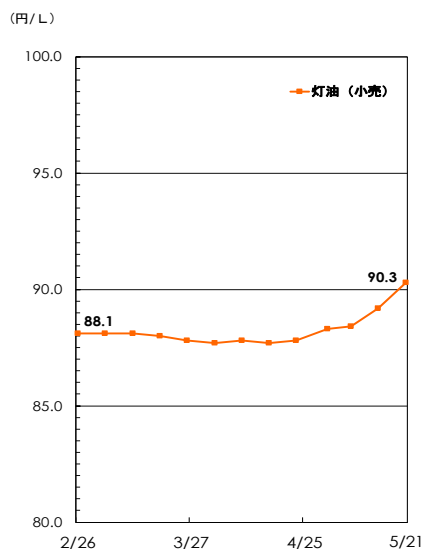
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/13 ~ 5/19	768 ▲ 71	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	648 ▲ 54	▼ -	
	輸出	"	122 ▲ 48	▼ -	
	在庫	5/19	1,553 ▼ -2	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/15 ~ 5/21	68.3 ▲ 1.9	▲ 20.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/15 ~ 5/21	67.4 ▲ 1.6	▲ 19.4
		(TOCOM/中部)	5/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/21	127.6 ▲ 1.9	▲ 16.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/13 ~ 5/19	84 ▼ -85	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	109 ▼ -38	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	5/19	1,459 ▼ -24	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/15 ~ 5/21	67.6 ▲ 1.8	▲ 21.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/15 ~ 5/21	67.5 ▲ 1.6	▲ 20.9
		(TOCOM/中部)	5/21	67.5 ▲ 1.4	▲ 20.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/21	90.3 ▲ 1.1	▲ 13.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月23日のNYMEX市場WTI原油は、午前発表の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比580万バレル増(予想同160万バレル減)、ガソリンが同190万バレル増(予想同140万バレル減)と市場予想に反し積み増しとなったこと、また、ロイター通信が関係筋の話として、OPECが6月にも産油量拡大の決定を下す可能性があること、さらに、外国為替市場でドル高・ユーロ安が進行し原油先物に割高感が生じたことなどから、続落した。この日から中心限月に繰り上がった7月限の終値は前日比0.36ドル安の71.84ドル、8月限の終値は前日比0.31ドル安の71.71ドルだった。

EIAによると、5月21日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.0セント値上がりの1ガロン2.923ドル(85.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.8セント値上がりの3.277ドル(96.9円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは9週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年5月13日～5月19日に休止したトッパー能力は62.0万バレル/日で、前週に対して21.0万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は303.1万klと、前週に比べ25.3万kl減少。前年に対しては30.9万klの減少。トッパー稼働率は77.4%と前週に対して6.5ポイントの減少、前年に対しては7.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/9.0%減、ジェット/4.2%増、灯油/50.2%減、軽油/10.2%増、A重油/2.9%増、C重油/49.7%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比6.8万kl減)。軽油の輸出は12.2万kl(前週比4.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では全ての油種で減少となった。

ガソリンの出荷は87.5万kl(対前週3.0%減)と前週比で2週連続で減少となり、8週連続で100万klを下回った。

ジェット10.4万kl(対前週20.3%増)、灯油10.9万kl

(対前週26.1%減)、軽油64.8万kl(対前週9.1%増)、A重油19.4万kl(対前週4.8%減)、C重油21.3万kl(対前週27.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/13 ~ 5/19)	前週 (5/6 ~ 5/12)	前週比
ガソリン	875	902	▼ -27 (-3%)
ジェット燃料	104	86	▲ 18 (21%)
灯油	109	147	▼ -38 (-26%)
軽油	648	594	▲ 54 (9%)
A重油	194	203	▼ -9 (-4%)
C重油	213	167	▲ 46 (28%)
合計	2,143	2,099	▲ 44 (2%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月19日時点の在庫は、ガソリンとA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは177.8万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては11.1万kl少ない。

灯油は145.9万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては21.1万kl多い。

軽油は155.3万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては7.1万kl少ない。

A重油は78.6万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては2.7万kl少ない。

C重油は200.7万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては3.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (5/19)	前週 (5/12)	前週比
ガソリン	1,778	1,719	▲ 59 (3%)
ジェット燃料	1,112	1,124	▼ -12 (-1%)
灯油	1,459	1,483	▼ -24 (-2%)
軽油	1,553	1,555	▼ -2 (-0%)
A重油	786	779	▲ 7 (1%)
C重油	2,007	2,035	▼ -28 (-1%)
合計	8,695	8,695	▶ 0 (0.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月15日から5月21日の原油価格は、前週対比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、5月15日から5月21日までの間、ガソリン120～121円台で値上がり後横ばい、軽油66～68円台で値上がり後横ばい、灯油66～68円台で値上がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン123～124円台

で値上がり後横ばい、軽油69円台でわずかに値上がり、灯油66～68円台で値上がり後やや値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン119～121円台で大きく値上がり、軽油66～67円台で値上がり、灯油66～68円台で出入り激しく値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上・陸上・先物の全取引で1.6円以上の大きな値上がりとなった。

5月第5週(5月24日～5月30日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月15日～5月21日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.9円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.9円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

5月第5週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/15 ~ 5/21)	前週 (5/8 ~ 5/14)	前週比
レギュラー	67.5	65.9	▲ 1.6
灯油	67.6	65.8	▲ 1.8
軽油	68.3	66.4	▲ 1.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (5/15 ~ 5/21)	前週 (5/8 ~ 5/14)	前週比
レギュラー	66.9	65.2	▲ 1.7
灯油	67.5	65.9	▲ 1.6
軽油	67.4	65.8	▲ 1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/15～5/21実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 1.7	▲ 1.6
灯油	▲ 1.8	▲ 1.6	▲ 1.7
軽油	▲ 1.9	▲ 1.6	▲ 1.8
A重油	▲ 1.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.0円高の149.1円、軽油は同1.9円高の127.6円、灯油は同1.1円高の90.3円(18%ベースでは同20円高の1626円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに、5週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいが1県(高知県)、値下がりは無かった。全国最安値は徳島県の141.9円(同2.3円高)、次が埼玉県の144.7円(同1.7円高)、最高値は長崎県の156.6円(同2.2円高)だった。最も値上がりしたのは、3.6円高の京都府(152.4円)だった。

先週の原油コストは値上りし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円の値上げとなった。5週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、

為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週(5月28日)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/21)	前週 (5/14)	前週比	直近高値
レギュラー	149.1	147.1	▲ 2.0	08/8/4 185.1
灯油	90.3	89.2	▲ 1.1	08/8/11 132.1
軽油	127.6	125.7	▲ 1.9	08/8/4 167.4

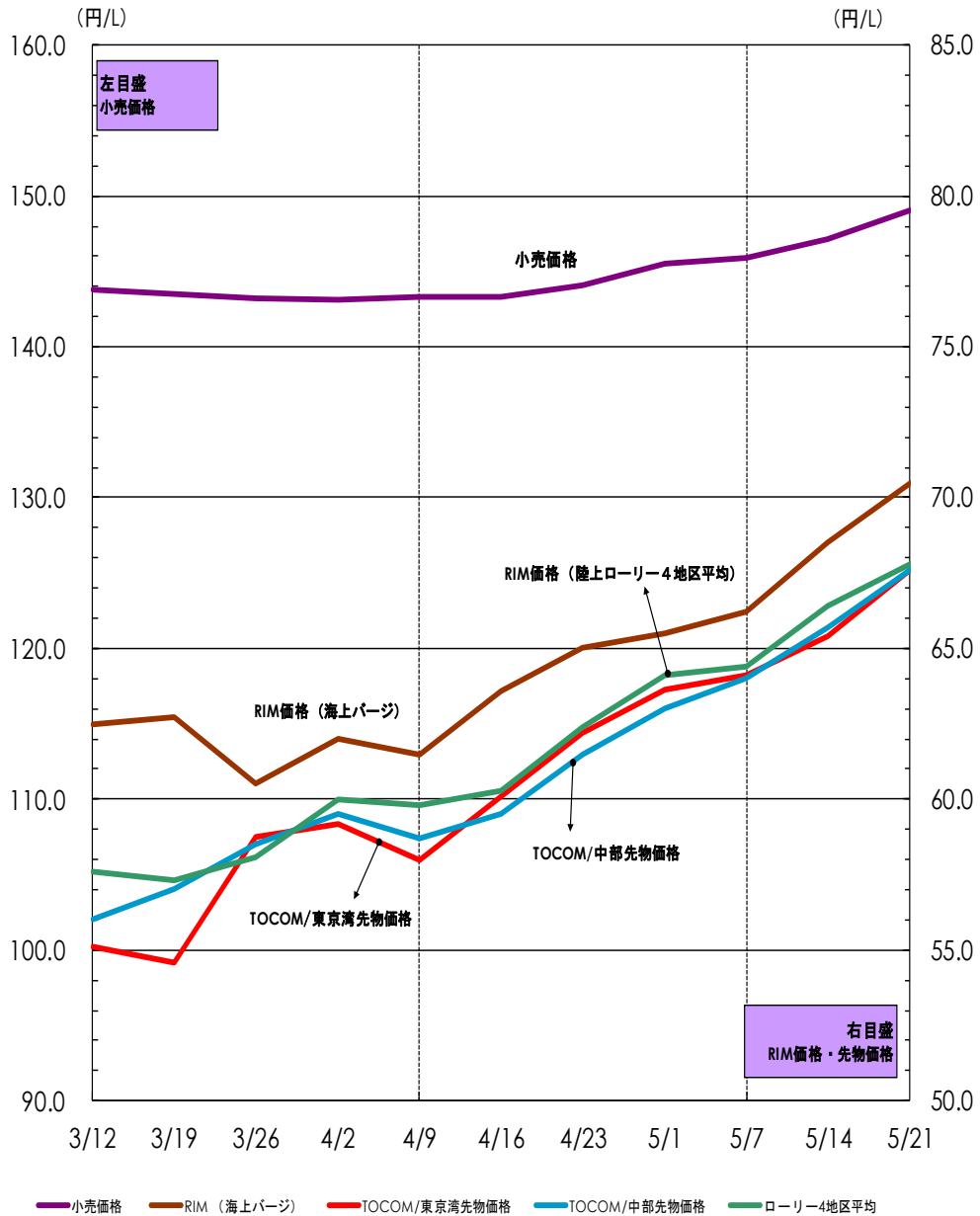
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/3/12 ~ 2018/5/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第8号)の公表は、6/1(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。